

# 「川尻小学校における川尻棒踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

指宿市立川尻小学校

## 2 学年・人数

小学1年（8人）、2年（11人）、3年（7人）、4年（11人）、5年（10人）、6年（16人）

## 3 場所・日時

### （1）練習の日時・場所

場所：川尻ふれあい交流館（川尻校区公民館）

日時：8月24日（月）～8月28日（金）17:00～18:00

### （2）発表の日時・場所（平成27年度）

- ・平成27年9月21日（月）川尻ふれあい交流館（川尻校区敬老祝賀会）
- ・平成27年10月4日（日）川尻小学校校庭（川尻小・川尻区合同運動会）
- ・

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

### （1）名称

川尻棒踊り（かわしりぼうおどり）

### （2）時代

時代は定かではないが、一説によると、島津日新公（忠良）が庶民の忠誠心を培うために踊らせたものといわれている。このことから、起源の時期は、江戸時代初期のころと推察される。

### （3）特徴

6人1組で構成し、竹製の3尺棒と6尺棒を持った踊り手が威勢のいい掛け声で前後左右の踊り手と棒同士を打ち合う。テンポが速く、勇壮活発な踊りである。たすきの背中に結びつけた色鮮やかな帯が特徴的である。

## 5 保存会や地域との連携の具体性

例年、保存会活動の一環として、夏休みの最終週の夕方、校区公民館で小学生へ練習・指導が実施されている。児童が放課後などを利用して自主的に練習をする際には、担任教諭等も一緒に練習に参加し、運動会や敬老会での披露に向けて踊りの上達に取り組んでいる。

川尻小学校では、川尻棒踊りを児童が継承する取組が46年前の1970年から行われていて、運動会や敬老会で披露し、好評を得ている。保存会の方と棒踊りを通して交流を図ることで、地域の歴史や文化に触れる機会にもなり、郷土に親しむ心の教育にも繋がっている。

## 6 活用の取組の工夫した点

保存会だけでなく、担任教諭も一緒に練習に参加することで、一体感をもって郷土芸能の継承活動に児童が取り組むことができている。保存会の指導者に同校の卒業生が多いことや、児童の保護者も会員として活動していて、地域ぐるみの活動として定着している。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

<校区公民館での練習>



<運動会での披露>



<敬老祝賀会での披露>



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(保存会)

- ・ 年々、子どもの数が少なくなり、寂しく感じられることもあるが、学校の先生も一緒になって踊りを覚えてくれることがとても心強く、嬉しい。
- ・ 区の運動会や、敬老会で子どもたちが披露すると、地域の方々が大変喜んでくれるので、指導する方も、真剣に指導するようになっている。
- ・ 保存会の会員が仕事の都合等もあり、十分な人数が集まれていることで、指導を受ける児童が戸惑うこともある。今の子どもたちが、未来の保存会員として継承してくれることを期待している。

(児童生徒)

- ・ みんなの前で踊るときは緊張するけど、楽しい。
- ・ 地域に残る伝統を学べて、よかった。
- ・ 自分たちも次の人たちに郷土芸能を教えていかないといけないんだなあと思った。

(教員)

- ・ 子どもたちに自分たちが住む地域を誇りに思う心が育つと思う。大変有り難い。
- ・ 伝統のバトンを受け継いで、これからも棒踊りを伝え続けてほしい。

(保護者)

- ・ 上級生が下級生に丁寧に指導する様子が印象に残っていて、子どもながらに、郷土芸能を伝えていこうという意識が自然に身につけているのではと感じた。